

大麦「ファイバースノウ」の出穂期の予測方法

1 背景・目的

大麦品種「ファイバースノウ」において、気象変動に対応可能な、出穂期を精度よく予測する手法を確立する。

2 技術のポイント

- (1) 1月以降の幼穂長と幼穂長測定日から出穂期までの積算温度を用いて、出穂期を推定する予測式を作成できる(図1)。
- (2) (1)の式に基づき作成した「出穂予測盤」(図2)の使用手順は、
 - ① ほ場から採取した株の主茎の幼穂長を測定する。
 - ② 予測盤には外側に日付の目盛、内側には幼穂長の目盛があるので、盤を回転させ、測定日と測定値の目盛を合わせる。
 - ③ 内側盤の出穂期の矢印位置の外側盤の日付が予測出穂期である。

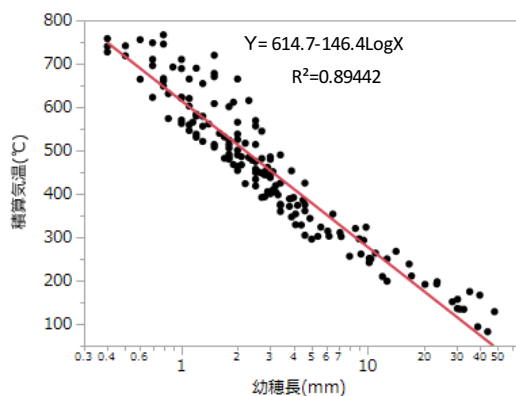


図1 幼穂長と幼穂形成期から出穂期までの積算温度

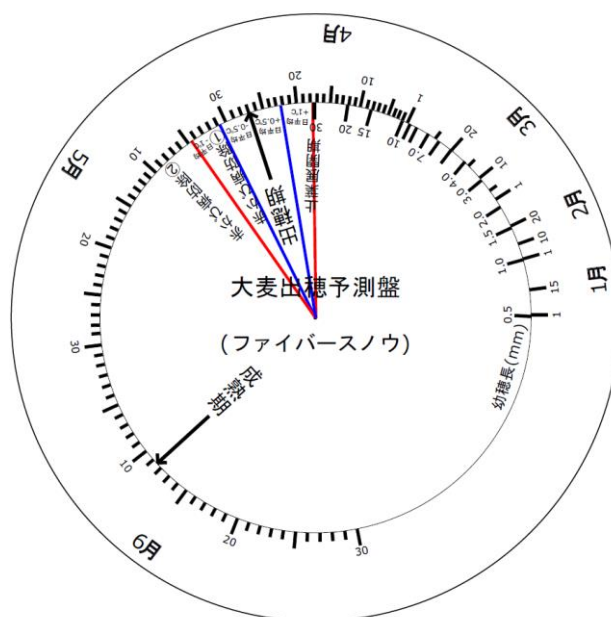


図2 出穂予測盤

3 成果の活用と留意点

- (1) 出穂予測盤は1月1日以降の予測に利用できる。
- (2) 日平均気温が平年並、高温、低温(日当たり $\pm 1^{\circ}\text{C}$ 、 $\pm 0.5^{\circ}\text{C}$)で推移した場合の出穂期や成熟期を予測できる。
- (3) 赤かび病防除適期や成熟期についても同時に予測できる。
- (4) 出穂予測盤を活用する際は圃場の生育中庸な個体の主茎の幼穂長を測定した値を用いることが望ましい。
- (5) 予測のための気象データは金沢気象台の数値を利用している。

問合せ先：育種グループ TEL076-257-6944
 担当者：松谷瑛、猪野雅栽